

●**城北ワンド 地引網見学** 新型コロナウイルス感染症予防のため2月から三密を避けなければならない状況のもとで、例年行われてきた外来種魚の捕獲作戦としての地引網を使った取り組みは、今年2回程度が限界とお聞きしました。やっと規制が外れて、県外への移動が可能になったので、無理やり見学視察に参加させていただきました。イタセンパラが生育しているワンドはかなり大きく、周囲には日曜日でもあり、朝早くから老若男女の皆さんが、中には子連れで釣りを楽しんでおられました。長竿ではフナ、短い竿ではタナゴ類を目当てにされているとのこと。本日の取組は地引網を引いて生育数を計算することが目的なので、簡単な打ち合わせののちに二人乗りのボートで30mの地引網を広げ、手繰り寄せることの繰り返しを4回行って、捕獲魚種を数えるというものでした。参加者は主に工業大学や産業大学の学生さんがワンドに入って網を手繰り寄せ、藻などを取り除きながら魚を集めていました。イタセンパラは3匹が捕獲されました。この日の集約では10種類の魚類とアカミミガメやモクズガニ、圧倒的にブルーギルやコクチバスがたくさん捕獲されていました。生物多様性センターも協力していて、備品や用具などが提供されているようでした。物品運搬用には三方開きの2tトラックが用意されていました。これまでいろいろご指導をいただきました綾先生や、河合先生もおいでになって、真剣に取り組んでおられました。綾先生から貴重な時間を割いて詳しいお話をお聞かせいただきました。また午後からは河合先生から下流に広がる形態の違ったワンドの案内をいただき、各種魚類が産卵できる浅くて広いところをご説明いただきました。

数年前までは歩行者用の歩道だった鉄橋が赤川鉄橋で、その付近にイタセンパラの発見記念碑がありました。この日の印象に残ったのは、とにかく多くの人々が淀川の公園に来られていること、そしてあちこちで楽しいひと時をすごしておられることでした。

●**竹蛇籠製作講習会** 13日は機械の調子の修理、17日は竹割と底辺部分の組合せ、18日は底辺の組合せ、19日は胴体部分の製作、21日は編み上げ。22日は胴体部分の編み上げと底辺の組合せが出来ました。この日までに12本が出来上がりました。全体計画は60本を目指すことにして20%の達成率になります。昨年は最初の頃は行き詰って、てんやわんや、行きつ戻りつを繰り返しながらの進行でした。しかし今年はあまり進め方に迷いはなく、ほとんどの場合次はどの作業になるのかと思ひだし、そのための心づもりができていて、かなりスムーズに進行していきます。スムーズなだけ余計な動きがなくなって、スピードがついてきます。作業が連続してくるようになってきているのです。良く「習うよりも慣れろ」の諺がありますが、5回目となるとそれなりの方法が身についてくるのだと思います。問題はできるだけ均一な材料を提供できるかになってきています。竹の長さの必要性、そして中心点の取り方等随分と改良点が見つかりました。なぜ7mの竹が必要なのかということの理解も進みました。なぜ胴巻きが10回で適正な数であるのか、そして六つ目網でその間隔が20cmなのかが理解され始めました。そして、詰め込む玉石の大きさが20cmなのかもわかり始めていただきました。これまでは大きく広い編み方だったので、大きくて重たい玉石が必要だったのです。大きい玉石は空間ができるので蛇籠の重量が軽くなってしまいます。こうした基本的な点の理解が深まって来るといよいよ本格的な蛇籠になります。ようやくの事こうした理解が出来て熟練してくると、作業は終わりになってくるのです。

一般的に三人一組で作業を進めますが、三人とも作業内容を飲み込んでいると順番に休憩しながら編み続けることが可能になってくるのです。すなわち力の抜き方がわかり、緊張感の必要性が少なくなって、普通の一般の作業になってくるのです。あともう少しの技術力アップでその域に到達できるのではないのでしょうか。

蛇籠作成参加予定者 26日(土) 太田 森島 播川 27日(日) 太田 森島 播川 小川  
28日(月) 太田 森島 有田 大村

●**真竹の2回目納入** 16日の事務局会議の後、午後から真竹の選び出しの作業になりました。これまでは枯れた竹が縦横無尽に倒れており前進も後進も動こうとすると大変困難でした。竹の選び出しと運び出しは相当な苦労労働でした。今回の竹やぶはそれほど長く放置されておらず移動などは以前と比べると比較にならないほど容易に行えます。従って選別や選び出し作業は簡略化能率よく進められます。また運び出しもトラック横付けで行えるので、大変好都合です。

●**サツマイモ収穫祭** 9月に入ってサツマイモ畑の試し堀を行ったところ、立派なサツマイモが顔を出しました。4株掘り起こしたところこれまでにない良い成果です。大いに喜んで、収穫祭を実施することにして、連休に開催案内チラシを意気込んで作成。大いに期待が盛り上がりました。楽しみなうれしいイベントになる予定でした。当日19日サツマイモ畑を掘り起こしてみますと60株の作付け地域で、15cmの芋がたった1個しか収穫できなかったのです。試掘をした折にイノシシ除けとして鉄網を芋畑全体に並べ敷き詰めて、簡単に掘り起こされないように対応をしておきました。ところが開けてびっくり、60株全部掘り起こして1個の芋のみで、全部完全に掘りつくされて、期待していた収穫は0となり、収穫祭「芋ほりイベント」は失敗となりました。アライグマに食べられたと思われますが、こうした状態は毎年引き起こされており、今年こそはと対策を取りましたが、見事に失敗しました。生き物との知恵比べに今年も負けてしまいました。事務局会議では来年には生き物との知恵比べに勝利しようとして笑い飛ばしました。

### ●**東大阪市「ももの広場」から里山の会視察交流会の申し入れ**

大阪府で3番目に大きい自治体が東大阪市で、東は生駒山から西は中環状線を超えるところまでの範囲です。そこで活躍されているサークルが街づくりのために京田辺市に所在するやましろ里山の会にこられて学習したいとのこと。この地域は昔大阪で有名な桃の産地で、「いなだ桃」といわれた地域だそうで、現在桃の並木を普及されているところだそうです。京田辺市では大住地域は今では住宅となっていますが現在の健康村や健康が丘の丘陵部が桃畑で近鉄鉄橋から西を見るとピンクの桃畑が眺められました。JR大住駅周囲には桃畑がみられますし、比較的新しい小学校の校名が桃園小学校とされています。まさに桃畑に学校が設置されたのです。こうした共通点があってこられるのかもしれませんが。少し地域の変化産業農業の歴史を学んでおきたいものですね。

### ●**同志社大学 都築さんから申し入れ**

都築さんから電話があり、以前同志社大学の学生が地元で学ぶものがあつたらいい、貴重な時間に京田辺市にいるのだからぜひ地域に出かけたいとの意向と伺い、竹蛇籠や中聖牛、魚とり、里山農園や植物調査のお話を説明しておきました。非常に興味をもって受け止めていただきましたが、新型コロナウイルス感染防止から三密が強調され、学生による感染防止が強調されて、大変動きづらくなって今日まで来ています。近頃少し雰囲気が変わってきていますが、学校当局からは一向に許可や承認がされていない状況で変化はあまり見られませんが、都築さんからこのまま何もしないで終わるのはとの意向でメールをいただきました。里山の会は11月7・8日に聖牛の組立てと、12月5・6日に聖牛の設置を予定していることを伝えました。できれば10月15日に里山の会で学生が考えている企画について検討してみたいとの申し出がありました。京田辺市の在り方や木津川の取組などについて説明を撮影し、事前学習資料でオンライン学習を行うとの企画だそうです。

●**緊急理事会 25日に開催** 定款の修正に関して相談させていただきます 欠席なきよう御出席ください  
里山の会事務所で午前9時30分時間厳守で開催いたします。

### ●**京都府交響プロジェクト交付金申請について、交付決定が届きました**

昨年度そして今年も申請金額満額で交付決定が届きました。申請内容は①里山農園自然活動31万、②親子で遊ぼう学ぼう魚とり47万、③中聖牛の設置78万、④竹蛇籠製作講習会48万、⑤カヌー体験22万、⑥地域説明会28万、⑦木津川の花43万の7項目で申請しました。皆様の積極的なご支援をよろしく願いいたします。このうち①②⑤の事業は実施済となっています。現在取り組んでいるのは③及び④の事業です。また⑦は12月に予定している25周年記念に完成できればと考えています。⑥は新年2月に開催いたします。最大の課題竹蛇籠製作への応援をお願いします



城北ワンド 見学時 風景

